

合格体験記 インテリア科 (就職)

株式会社霧しな

インテリア科 男子 (令和4年度)

私が進路について考え始めたのは、二年生の時からです。当時は専門学校への進学を考えていました。しかし、家庭の事情で進学をあきらめ、就職することになりました。

就職先を決めるにあたり、私自身は元々物づくりが好きなこともあり、製造業に興味がありました。三年の夏には、合計四社を訪問し、会社見学してきました。

株式会社霧しなに決めた理由は、親族もこの会社に勤務していること、会社の環境や評判も良く、私に合っていると思ったからです。また、霧しなの商品は、木曾を代表する程有名で、土産品としても、贈答品としても多く利用されています。全国のスーパーマーケットでも、乾麺コーナーに並んでいます。このような商品製造に是非携わってみたいと思ったからです。

入社試験は適性検査と面接がありました。適性検査の対策は、特に何もしませんでした。受験本番に意識したことは、落ち着いて臨むということでした。面接試験は、検査官4人と私1人で、30分程でした。とても緊張して、上手に答えられたのか、あまりよく覚えていません。

後日、合格の通知が届いた時は、とても嬉しかったです。面接練習は、進路の手引きにある就職面接質問内容を元に自分の考えをまとめる等しっかり行ったのですが、自信が無かったのも、結果を聞いて安心しました。

来年からは社会人として、会社や社会の一員として地域に貢献したいと思います。また、ちょっとずつでも親の支えになれるように、頑張っていきたいです。

木曾広域連合事務

インテリア科 女子 (令和4年度)

私が進路について考え始めたのは高校二年生の時でした。三年生に近づくにつれて周りのクラスメイトは、自分のやりたいことや行きたい学校が既に決まっていた。そんな中焦りを感じた私は先生に相談に行きました。「学力も悪くないし、体力はあるから、女性消防士はどうだ」と、先生は言うて下さいました。私は高校での成績は良かれ悪かれ、普通でした。体力面では、部活動でバスケットボールをやっていたため、自信がありました。また、体を動かすことが趣味なほど運動は好きでした。しかし、消防士と聞いても特に憧れはなく、そこを目標とすることにはなりません。どちらかといえばもっと広い意味での「公務員」にどこか魅かれるものがありました。このことを先生に伝えました。「とりあえず公務員模試を受けたらどうだ」とアドバイスをいただきました。この言葉が私を公務員に近づけてくれたと思います。

そこからは、初級地方公務員過去問等を使い学習を進め、一ヶ月に一回程度計画されている模試を受け続けました。教養試験は私の学力では答えられないくらい難しかったように感じました。適性検査はやり方を覚えると楽しく、飽きることがなかったです。一回やった

問題は見直しをして次に繋がるようにしていました。その結果、一回目より教養試験の点は伸び、適性検査も80%はとれるようになりました。結果が出ない時でも、次に好結果を出す可能性を信じて諦めずに努力することは大切だと、自分の経験を通して感じました。

三年生になると、ほぼ毎日進路についての話題があり、気を抜かずに自分の進路を考えなくてはなりません。三年になって私は、公務員を目指すことを決意しました。夏休みに入り、私は大原簿記松本校での夏期講習に足を運びました。そこには、公務員を志望する多くの高校生がいました。私だけが必死に勉強しているわけじゃないと思い、少し気が楽になったと同時に、もっと頑張らないといけないという思いも出てきました。講習を終え、残りの休み期間も図書館などに行き、勉強に励みました。

一次試験の内容は教養試験、適性検査、作文でした。ほとんどは今まで勉強してきた形式の問題でした。作文は、ほとんど基本練習しかせず本番を迎えたので、少し焦りもありましたが、落ち着いて取り組むことができました。

二次試験は面接試験でした。試験官は4人いる中で行いました。とにかく焦らずに力を抜いてはしっかり答えることが大切でだと思いました。

私は最初から公務員を目指して模試を受けていたわけではありませんが、今はあの時の「とりあえず」の気持ちで受けたことに感謝しています。私のように進路に悩んでいる人がいたら、とりあえずの気持ちで良いので自分から行動を起こしてみると、やりたいことが見つかるかもしれません。あとは自分の努力次第だと思います。結果が出なかったとしても努力したことは無駄にはなりません。自分を信じて頑張ってください。

株式会社竜東スチール

インテリア科 女子 (令和4年度)

私は入学当初から高校を卒業したら社会に出て働きたいと考えていました。最初は製造業やサービス業といった分野の職業に就きたいと思っていました。しかし、夏休み中に行った会社見学での製造業やサービス業は自分の中であまりピンと来ず、自分がやりたいと感じる仕事内容ではありませんでした。そこで、求人票を何回も見直し、違う分野の仕事を調べる中、事務の仕事が目につきました。高校2年生の授業で、ワードやエクセルに関する知識や技術を習得できたこと、併せて資格を取得できたこと、これらの体験が私を事務の仕事に向かせたのだと考えます。

両親も職種選択に納得してくれたので、夏休み明けに会社見学に行きました。私は事務職希望での見学でしたが、竜東スチールはものづくりの会社です。私がインテリア科で学習してきたものづくりに対する気持ちは、この会社にも繋がるのかなと心強く感じ、この会社への就職試験に応募しました。

試験内容は面接、適性検査、作文の3つでした。面接官は二人で、30分程面接でした。質問内容は事前に練習した内容に無かった質問が多々ありましたが、焦らず落ち着いて答えることができました。適性検査はどんな内容の検査なのかが分からず、念のため適性検査対策のテキストを本屋で購入して対策しましたが、全く違う内容でした。ですが落ち着いて時間内に解くことができました。作文は事前に書いて、当日提出という形でした。担任の先生や、クラブ顧問の先生に読んでもらい、高評価をいただいたので、自信をもって会社の方

に提出することができました。試験中も言葉遣いや、姿勢を正すことに意識していました。内定の知らせを頂いたときは家族や友達、お世話になった先生方も一緒に喜んでくださりとても嬉しかったです。

小川歯科クリニック

インテリア科 女子 (令和4年度卒)

私が進路について考え始めたのは、三年生になってからでした。最初のうちは進学を考えていましたが、凄くやりたいことや目標がはっきりしていなかったなので、就職にしようと進路方向を決めました。

私は人と関わることが好きなので、就職するなら人と関わる仕事にしようと思い、調べていく中で歯科助手という職業を見つけました。歯科助手として働くには、資格などはいらないのですが、少しでも歯科の知識を身に着けたいと思い、歯科助手の資格を取ることにしました。そこからたくさん勉強をして資格を取ることができました。決めてからは本格的に歯科助手について調べたり、この職種について更に学習を深めました。

また、私は長野県内で就職したいと考えていたので、インターネットで調査し、こちらの歯医クリニックを候補とし、会社見学に行きました。担当していただいた方がとても親切で、施設もととのっていたことから、私もこちらで働き、この歯科クリニックに貢献したいと強く思い、面接を受けることにしました。

入社試験は面接のみで、担任の先生とインテリア科の先生を中心に面接練習を行いました。私は高校受験の際に後期試験で入学したので、面接というものをしたことがなく、最初は不安だらけでした。ですが、面接練習の際に考えた文章を全部頭の中に入れるのではなく、自分が伝えたい内容の単語だけを頭に入れるようにしました。そのおかげで実際の面接では、緊張しすぎず、リラックスして臨むことができました。

入社後は、覚えることがたくさんありますが、職場の方とコミュニケーションをとりながら、患者さんが安心してきていただけるように笑顔で業務に専念したいと考えています。

株式会社新陽物産

インテリア科 男子 (令和4年度)

私が、進路について明確に考え始めたのは3年生になってからでした。それまでは、ぼんやりと家具製作関係の仕事をしたいたしか考えていませんでした。進路講話や志願理由書の練習等を通して家具製作に関わることのできる仕事について調べるようになりました。はじめは求人サイトで片っ端から企業のホームページや実績、写真等を調べ、いいと感じた企業をいくつかリストアップし、両親とも相談しながら見学に行く企業を決めました。

夏休み中には、3つの企業に見学に行き企業の雰囲気や業務内容等の見学をしてきました。その中で株式会社新陽物産に応募を決め履歴書を送りました。しばらくして担任の先生から書類を渡され、「内定です」と言われました。また、先生から「見学が面接の代わりになったそうです」とも言われました。もともと、見学に行った際に技術がなかったとしても若くて長い期間働ける人をこれから雇うようにしていく。他の企業にも見学に行っ

て興味があれば求人票など対応します。と言われていましたが、面接など試験なしに内定をもらえるとは思っていませんでした。このことから、試験は見学の時から始まっているということを考えて、服装や言葉使いなどに気を付けた方がいいと思いました。

入社後は、いち早く業務内容を覚えつつも、自分の技術を磨くためにたくさん見たり感じたりして、技術の向上に努めていきたいです。

社会福祉法人 サン・ビジョン

インテリア科 女子 (令和3年度卒)

私が、本気で介護の仕事がやりたいと思ったのは、夏休み前のことでした。それまでは、将来に向けてやりたいこともなく、あまり得意な事もなかったので何をしていけばいいかずっと悩んでいました。なんとなく思いついたのは、本屋やスーパー系といった接客業でした。しかし、あまり自分の中ではピンと来ず、何度も先生と面談をしては考え直していました。その中で、自分の長所である、人の悩みを聞くというところに焦点を当ててみました。人の為に行動し、助けたり、一緒に楽しめたりすることは、私にとってとても大切な生き甲斐でもあります。

中学二年生の時に職場体験で介護職の体験をしました。その時に利用者の方とレクリエーションをして楽しんだり、生活のお手伝いをして「ありがとう」とお礼の言葉をいただいたりして、とても嬉しい気持ちになりました。それは私の長所を生かした生きがいのようなものなのかなと感じました。実際に企業見学をさせていただきました。利用者の方と職員双方がとても楽しそうに生活していました。その様子を見て、私はここで働きたいと強く思いました。少し遅くなってしまいましたが、ようやく私のやりたい事が見つかりました。

入社試験に向けて面接練習をしました。初めて担任の先生と練習した時は、話したいことがまとまらず、指摘されることが多かったです。ですが、何回も練習していくうちに話すことがまとまり、自己の成長を感じることができました。

面接当日は、適正検査を受けた後に面接をしました。緊張しましたが、冷静にはっきりとした声で質問に答えることができました。面接の雰囲気はあまり固くなく、二対一だったので安心して受けることができました。

入社後の目標は介護の資格取得の勉強をしながら、利用者の方々を笑顔にできるよう、先輩方に仕事を教えてもらい、臨機応変に対応できる介護福祉士を目指したいです。

マルオカ工業株式会社

インテリア科 男子 (令和3年度卒)

私が進路について考え始めたのは、3年生になってからでした。当時は今とは違う職種を考えていました。中学2年の時に職場体験があり、私は接客業を体験させていただき、その時に接客業の仕事の楽しさを学びました。高校に入学し、授業で木を使ってものづくりをする学習体験をとおり、木に携わる仕事に就きたいと強く考えるようになりました。もともと、私は小さい頃から木で何かを造る事が好きだったということもあり、自然な成り行きだったとも感じています。その事を先生方や親とも相談し、接客業より木に携わっ

た仕事という方向で大まかな職種を決め見学や書類検索を進めました。

第一候補とした企業は、キャンパスの木枠などを造っている「マルオカ工業株式会社」でした。会社見学をさせていただいた際に「この仕事なら自分に向いている。ここで働きたい。」と感じ決定しました。

受験準備としては、選考方法が面接だったので面接練習に力を入れました。先生方にお願いをし、繰り返し面接練習を行いました。注意されたところをメモしては直し、今度は前にできていたところを失敗してしまい復習練習、といった苦労の連続でした。家でも親や姉をお願いをして面接練習に取り組みました。

試験当日の面接では、とても緊張しましたが、落ち着いて大きな声で質問に答えることができました。立ち居振る舞いも失礼が無かったと思います。卒業までの残り少ない学校生活ですが悔いの残らないように過ごし、卒業後は社会人になったという自覚を常に持ち、職場貢献に合わせ地域貢献もできるよう働きたいです。

丸林商工株式会社

インテリア科 男子 (令和3年度卒)

私が自身の進路について考え始めたのは、高校3年生の夏でした。最初は、ただ簡単に就職するという思いがあっただけで、何をしたいかは考えていませんでした。そんな状況で、私がこの会社を選ぶきっかけとなったのは、夏休み中に行われた就職希望者向けのガイダンスに参加したことでした。最初は具体的な就職などは決めていなかったのですが、いくつかの企業を見学させていただきました。私はそんな中で丸林商工株式会社に応募を決めました。理由は、部活やインテリア科の工業クラブで経験したことを活かせると思ったからです。

入社試験は面接でした。面接だけでしたので、その点に力を入れました。先生方に面接練習をお願いして練習しました。私は緊張すると言葉が出にくくなってしまうことがあるのでなるべくリラックスまでとはいきませんが、普段通り話すことを意識するように心掛けました。実際の面接では、履歴書の中からの質問が多かったのですが、中には違った分野からの質問等もありました。その時はとにかく焦らず、練習したことを思い出し、自分のペースで丁寧に、自分の意見や考えを相手に伝えることができました。

入社後の目標は様々なことに挑戦し、1日でも早く吸収していくことです。そのために今から得意、不得意に関係なく積極的に行動し、日々の生活を大切に送っていきたいです。

木曾農業協同組合

インテリア科 女子 (令和2年度卒)

私は高校二年生の時に進路を就職と決め、就職するなら事務系がいいかなと思っていました。

事務系にもいろいろな仕事があって、どういう仕事がいいのか悩んでいたとき、親戚に農業協同組合で働いている方がいたので、どんな仕事をしているのか聞いてみることにしました。その方は農業協同組合の金融窓口で働いているようで、農家の方や地域の方とたくさん関わったり、金融の事務をしたりしているとのことでした。事務系の仕事は人とあまり関わらない仕事なんだろうなというイメージだったので人と関わりを持ちながら事務

をできるという仕事にとっても魅力を感じました。

それから農業協同組合がどういう組織なのか知るために会社見学に行きました。担当の方がとても親切にしてくださり、職場の雰囲気も和やかだと感じました。農業協同組合は地域の方々の暮らしに役立つため、様々な事業をしていることや農業経営者を資金面や技術面など様々な角度からサポートをしているということがわかりました。

私は元々アルバイトをしていて農家の方々と関わる機会が多く農業についてのお話を聞かせていただくこともあり農業の大変さを普段から聞いていたので、農家の方々の役に立てるお仕事ができ、私のやりたい仕事ができるのでとてもいいと思い、決めました。試験の時も緊張をほぐすために担当の方や、面接官の方が和やかな雰囲気になってくださりました。

農業協同組合で農家の方々を支え、地域社会にも貢献できるようこれから頑張りたいです。

降幡自動車株式会社

インテリア科 女子 (令和2年度卒)

私が進路について真剣に考え始めたのは、高校2年生の秋頃からでした。最初は進学を考えていましたが将来やりたいことがはっきりとしていなかったので進学してもやりたいことがなければ意味がないと思い就職をすることにしました。就職と決めた時学校で取得した資格を活かしたいと思いパソコンをよく使う事務系の仕事に就きたいと思いました。

進路室にある求人票の中からいくつか事務系の仕事を探し、いくつか気になった企業を見学させていただきました。私はその中で降幡自動車株式会社に応募することを決めました。両親の影響で車には興味があったので、自分が好きな物に関われる仕事ができ、高校生活で学んできた経験や取得した資格を活かすことができると思ったからです。

入社試験は面接・適性検査の2つでした。面接練習は5回程度やり本番の面接に備えました。志望理由と自己PRは確実に聞かれるのでしっかり言えるようにして、自分自身が質問したいことをあらかじめいくつか用意しておきました。本番は、人事担当・工場長・社長の3人との面接でした。とても緊張しましたが、練習通りに落ち着いて世間話をするような感覚で会話をして質問に対しての受け答えができました。面接の最中、特に気を付けたことは表情と言葉使いです。表情が固いとイメージがガラッと変わってしまうので、緊張はするものの明るく笑顔でありのままの自分を出すことようにと心がけていました。言葉使いでは私は、気が緩んでしまうとどこかでタメ口が出てしまうことが多くあったのでタメ口が出ないように気を付けて話しました。

入社してからは、初めてやることが多いため覚える仕事がたくさんありますが、自分が選んだ道なので任された仕事は最後までしっかり成し遂げ、今までやってきたことの努力を無駄にしないように会社のために貢献できるよう頑張っていきたいです

特定非営利活動法人 のぞみの里

インテリア科 女子 (令和2年度卒)

私は高校二年生の時に介護福祉士になりたいと考えるようになりました。私が介護福祉

士になりたいと思ったきっかけは、近所に住むお婆さんの歩行の手助けや会話をして、「ありがとう」と言われたことでうれしさを感じたからです。この経験からもっとたくさんのお年寄りの方の役に立てるような仕事に就きたいと考えるようになりました。そのため私は周囲の人への細かい気配りができるように心がけ、誰にでも明るく接しコミュニケーションをとるようにしました。

三年生になり本格的に就職活動が始まり、学校に届いた求人票の中で興味を持ったいくつかの介護施設について調べました。その中で特定非営利活動(NPO 法人)として活動しているのぞみの里に目が留まり、施設の見学をさせていただきました。施設の見学させていただいたときにスタッフの方と利用者の方の距離がとても近く家族のような雰囲気を感じ、居心地がよく私ものぞみの里でスタッフの方と一緒に働き利用者の方々の生活の手伝いをしていきたいと考え、のぞみの里に応募することに決めました。

入社試験は面接試験でした。面接練習は10回程度やり、本番に備えて練習しました。質問内容や自分の話し方、先生からのアドバイスなどをしっかりと聞き対策をしてきました。そして、入社試験当日は、面接練習の時よりも緊張せずに笑顔でハキハキと質問に答えることができました。

入社後の目標は、すぐに現場に入るため覚えることはたくさんありますが、スタッフの方に教えてもらいながら、利用者の方に信頼され、安心してもらえるような介護福祉士を目指します。

岐阜県市町村立小中学校事務職員

インテリア科 女子 (令和元年度卒)

私は、高校一年のときから公務員を大まかな進路として考えていましたが、公務員試験に向けて動き始めたのは二年生の時です。学校で行われる模擬試験や対策講座に少しでも多く取り組んだり、松本の大原学園で開かれる夏期講習会にも足を運んで勉強に励みました。公務員試験では、学校では学ぶことができない数的処理などについて学ぶことができます。また、社会や数学など、範囲が広くてどこから手を付ければいいのかわからないものも、出やすいポイントを教えてもらえます。自分で勉強するためには市販の問題集を購入してコツコツと進めていきました。

岐阜県で試験を受けたので模擬試験よりもすごく緊張はしましたが、試験開始時間まで問題集を見直して試験を受けました。一次試験は一般常識だけでした。今まで少しずつ勉強してきたことをすべて出し切ることができました。一次試験の日に、二次試験での配点になる作文試験も一緒にありました。二次試でのタイミングで受けると思っていたので、学校での練習を一回しかしていなく、すごく不安でした。「あなたの考える公務員としての心構えとは」という課題だったので、とにかく問われたことに対して自分の思ったこと、たくさんの方が払っている税金で生きていけるのだというありがたさを感じて、精一杯働いていくべきだという自分の考えを書きました。

二次試験では、クレペリンと性格検査、個人面接の3つでした。個人面接は面接官が3人いる中で行われました。事務職員特有の質問としては「転勤された先生の連絡先を知りたいといわれたときにあなたはどうしますか。」というものがありました。事務員が取り

扱えるものの多くが個人情報であるのでその先生に直接確認をするべきだという考えで答えました。

予想外のことがあっても焦らず、最善の道を突き進めばいい結果に結びつくはずです。また、試験を受けるまでにしてきた努力が何よりも自分を助けてくれると思うので、できる限りの勉強、練習を重ねて自信をつけて試験に臨み、自分の希望する進路を実現させてください。

長野オリンパス（株）

インテリア科 男子 （令和元年度卒）

私が長野オリンパスに興味を持った理由は、業種が緻密な作業を必要とする精密業であったことと、福利厚生がとてもよかったからです。正直こんなに条件が合い、良い環境の会社はないと思っていました。私は時間が空いた時、必ずネットで長野オリンパスについて調べていました。母の知り合いの方を通じて、実際に長野オリンパスで働いている方々から情報を得ていました。そうすると、社内の雰囲気がとてもよく、不満を持っている社員がほとんどいないということがわかりました。私は社内の雰囲気がいいほど良い環境はないと持っているので、長野オリンパスに行くぞと強く決心することができました。

私は試験に向けて面接練習とSPIの勉強に力を入れました。面接練習は主に面接官をやったことがある先生や、日本語のプロフェッショナルである国語の先生、話したことのない先生にお願いしました。初めのうちは全く回答できなかつたり、いかにも決まった文をそのまま読んでいく感じがあったり、散々でした。しかし何回も練習するうちに自分の中でもびっくりするほど上達しました。SPIの勉強は確実にスピーディーにやることを意識しました。習っていない範囲がありましたが、時間をかけて調べながら取り組みました。

一次試験はSPIとDISTと適性検査をやりました。SPIは勉強したものを少し応用した問題が出ました。事前に勉強しておいたおかげでなかなか良い点数をとれたと思っています。DISTは性格を知るためのマークシート形式のテストなので特に問題点はありません。適性検査は1cm未満のネジにリング状の部品を2つ入れ、ナットで締めたものを制限時間内に何個作れるかというものでした。制限時間は三分です。一見簡単そうに思えますが、部品すべてがとても小さいため、かなり緻密な作業を必要としているのでとても難しかったです。一番気を付けてほしいことは、緊張により手が震えて部品をネジに入れられないどころか、部品を持つことすらできなくなることです。検査前は10個くらいは余裕だろうと思っていましたが、7個しか作ることができずかなり焦りました。

二次試験は面接をしました。当日まで練習して自信がついた状態でも、面接前は口から心臓が出そうなほど緊張しました。緊張で回答できなかつたらどうしようと不安になりましたが、面接官の方々がとても優しくおかげで緊張も解け、今までで一番良い面接ができました。

振り返ってみての反省点として面接練習をもう少しやっておけばよかったことと、当日に緊張しすぎていたことが挙げられます。来年度以降長野オリンパスを受ける人に伝えておきたいことが2つあります。

1つ目は授業選択で数学をとっておいたほうが良いことです。SPIでは授業選択でとれる数学の範囲も出ます。私は数学を選択していなかったため、一人で調べながらやりました。理解能力が無いせいもありますが、ちゃんと理解するまで1時間もかけてしまいました。なので数学はとっておくことをおすすめします。

2つ目は緊張しすぎないことです。緊張しすぎると少しのミスで異常に焦ってしまい、いいことはありません。難しいとは思いますが、肩の力を抜いて試験に臨んでください。

以上のことに気を付け、頑張ってください。

株式会社長野エーコープサプライ

インテリア科 女子 (令和元年度卒)

私が自分の進路について考え始めたのは、高校3年生の夏です。最初はただ簡単に就職をするという思いがあっただけで何をしたいかは考えていませんでした。そんな中で私がこの会社を選んだきっかけは夏休み中に行われた就職希望者向けのガイダンスに参加したことです。そこで話を聞いていくうちに私は自分が育った地元で恩返しができる仕事がしたいと考えるようになりました。

最初は具体的な職種などは決めていなかったのですがいくつかの企業を見学させていただきました。私はその中で株式会社長野エーコープサプライに応募を決めました。部活やインテリア科の工業クラブで経験したことを活かせると思ったからです。

入社試験は、一般常識問題(言語、数理、図形、論理)、適性試験(マークシートのアンケート)、面接、小論文でした。私が特に力を入れたのは面接です。先生方に面接練習をお願いして練習をしました。私は緊張すると早口になってしまう癖があるので少しでも良くなるように意識して話すことを心掛けました。実際の面接では、履歴書の中からの質問が多かったのですが、中には「自分が頑張ったことの中で誰にも負けないことはなんですか?」など不意を突かれた質問がありました。ですが練習したことを思い出し、自分のペースで相手に伝わるように自分の意思を伝えることができました。一般常識問題では就職希望者で購入したテキストをひたすら解くことで本番に備えることができました。適性試験では制限時間がありましたが落ち着いて解くことができたので良かったです。また、小論文では時間70分文字数が1000字と多く大変でしたが、出された題に沿ってしっかりと自分の意見を書くことができました。今回の試験の小論文は「私の将来の夢」という題で、私は自分が働いている姿の像や仕事内容に絡めて書きました。

今回、面接練習に特に力を入れて練習してきましたが、作文など自分が苦手としている分野に力を入れてやるのが大切だと感じました。

入社後の目標は様々なことに挑戦し、吸収していくことです。そのために今から得意、不得意に関係なく積極的に行動し、日々の生活を大切に送っていきたいです。

富士特殊紙業株式会社

インテリア科 女子 (令和元年度卒)

私が最初考えていた進路先は専門学校に進学することでした。しかし、卒業後に就きたいと思っていた職業は自分のやりたいことではありましたが、その職業は稼ぎには向いて

おらず生活に支障が出ることや学校に通うための費用が掛かることなどがあり就職のほうに方針を変えることにしました。

まずは、就職先を求人票やパソコンで探すことから始めました。自分がやってみたい接客業を中心に探していましたが、その際に珍しい職業内容の会社が目に留まりました。その職業内容というのが食品パッケージの製造というものでした。デザインとも関わりがあり、詳しく見てみると興味深い内容ではあったものの、希望とは違う工場での仕事であり、また、就職先が愛知となっていたため家から通えるような場所を探していた私にとって、わざわざ遠いところに行ってまで就職する必要があるのかと悩みました。そんな時、担当の先生と相談していると先生のほうからせっかくデザインの授業をしてきたからこんなところもどうかと勧められたのが富士特殊紙業株式会社でした。実は先ほど気になっていた会社と同じで、これも何かの縁だと思い見学に行くことにしました。

夏休みの期間中に先ほどのところと合わせて3社ほど見学に行きました。どの会社も見学してみると自分が思っている以上に良かったのですが、富士特殊紙業株式会社が一番魅力を感じ就職先の希望を決めることができました。決まった後は面接練習と学科試験の勉強をしました。面接練習はそれぞれ違う先生方に頼んで予定を入れてもらい、1回1回言われたことをメモして次に同じような間違いをしないように練習を繰り返しました。しかし、当然ながら同じような質問が何度も来ることはないのです。そんな時は自分が率直に思ったことを言葉にして言うてみると上手く質問を返すことができました。学科試験の勉強は問題集をひたすら勉強し、分からないところは先生に聞いてやるようにしました。本番前日もしっかりやったことを復習して次の日会場に向かいました。

最初は面接から始まり、本番で緊張するかと思いましたが何度も練習したおかげか緊張することはありませんでした。質問内容は練習してきた質問はあまりなく初めは戸惑いでしたが自分が思ったことや伝えたいことを返すことができました。試験のほうも勉強したことをしっかり思い出しやり遂げることができ、後日に通知が届き無事合格することができました。合格はできましたが本番で行ったことが完璧かという、もっとできたことがあったなと感じました。例えば、面接で質問されたことから企業に近づけた発言や勉強も問題集だけでなくニュースなどにも目を向けておくといいと思いました。

これから先あるいろんな場面の中で今まで学んだ事を生かし頑張っていきたいです。